

第1回 熊本市宿泊税検討委員会

開催年月日 : 令和5年(2023年)10月31日(火)

開催時間 : 午前10時30分~午前12時00分

開催場所 : 熊本市役所本庁舎4階モニター室

【出席者】

■委員

所属	役職	氏名	備考
熊本県立大学 総合管理学部 総合管理学科	准教授	井寺 美穂	
東海大学 文理融合学部 地域社会学科	客員教授	小林 寛子	会長
(一社)日本旅行業協会九州支部 熊本県地区委員会	委員長	島添 哲也	副会長
熊本市観光旅館ホテル協同組合	理事長代行	鶴山 敏哉	
熊本市ホテル連絡協議会	代表理事	長尾 勇	
熊本市旅館ホテル組合	組合長	西上 佳孝	
熊本経済同友会	幹事	西原口 香織	
植木温泉観光旅館組合 こまち会	代表	平山 愛	
(一社)民泊観光協会 熊本支部	代表	吉川 香寿美	

※敬称略

■オブザーバー

熊本県観光戦略部観光企画課

一般財団法人 熊本国際観光コンベンション協会

■事務局

熊本市

【議事要旨】

1 開会

(事務局)

第1回熊本市宿泊税検討委員会を開催いたします。本検討委員会は、本市における宿泊税の検討に関する事項を審議するために設置した本市の附属機関でございます。

2 会長・副会長選任

(事務局)

まずは、会長、副会長の選任を行ないたいと思います。熊本市宿泊税検討委員会の組織及び運営に関する要綱第5条の規定に基づきまして、委員の互選により選任を行います。自薦他薦構いませんが、どなたかいらっしゃいませんか。

(委員)

委員名簿を見ておりますと、宿泊関係の事業者が複数名選任されております。公平性を保つ為にも、よければ会長を小林委員にお願いできればと思うのですが。

(事務局)

ありがとうございます。皆様のご賛同を頂けましたら小林委員にお願いしたいと思いますが、皆様いかがでしょうか。

(小林委員了承。他の委員異議なし。)

(事務局)

それでは、小林委員よろしくお願いたします。

続きまして副会長でございますが、こちらの方も推薦などありましたらお願いしたいのですが。

(委員)

旅行業を代表されている、島添委員にお願いできますでしょうか。

(事務局)

島添委員、よろしいでしょうか。

(島添委員了承。他の委員異議なし。)

(事務局)

それでは、会長は小林委員、副会長は島添委員という所で決定させていただきます。ありがとうございます。それでは、恐れ入りますが会長席、副会長席の方へご移動をお願いいたします。

3 議事

(1) 観光振興の重要性・財源確保の必要性について

(事務局)

「資料1 観光振興の重要性・財源確保の必要性について」説明

(会長)

今、事務局の方でご説明いただきました観光振興の重要性ということで、皆様正に現場で毎日費やしていらっしゃる方なので今更ということもあるかもしれませんが、ここに書かれていることの中で、行政にもっと力を入れてほしい、又はこの視点からもう少し何か言葉をつけ足した方がいいのではないかというような、特に強化した方が良いことなどがあれば、ご意見をお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(委員)

先程お話にもありました通り、やはり新型コロナ禍からの回復という所に現状はあると思います。熊本あるいは熊本市の観光需要に与えたダメージは大変大きかったと思いますが、やっと去年、今年に入って回復してきたなという所です。

回復から復活に向けて一步また踏み出さないといけないという所で、宿泊税に絡む部分もありますけれども、県外、全国あるいは海外のインバウンド観光客をいかに熊本へ誘客するかという所になってくると思います。そういった意味で、魅力ある観光環境を急ぎ作っていく必要があると思います。先程、私から都市間競争というお話をいたしました。都市間の連携も非常に大切ですが、ライバルでもありますので、他の観光都市と比較してどれだけ熊本に魅力を作っていけるかが勝負かなと思います。そういった意味で、目的を持った予算を、観光に集中的に投下していくタイミングにあると思います。ぜひ追い風にして、熊本観光の復活をできるだけ早く成し遂げて行く必要があると思います。

(委員)

私も同じ考え方なのですが、宿泊税に関しては、九州で導入している所は福岡県、福岡市、北九州市それと長崎市ですよね。そういう所がどういう形でお客様をお迎えしているのかを見て行く必要性もあるのではないかなと。

また、今熊本市内のホテルの稼働率がかなり上がっております。これが本当に魅力ある熊本ということでいらしているのか、それともTSMCの立ち上げや工事関係でいらし

ているのか、インバウンドでお見えになっているのかというのが、今正直な所まだ見えてきておりません。それで、先程お話にもありましたが、魅力ある熊本というものがせっかくあるのに打ち出せていない。観光資源が熊本城、水前寺公園、それ位しかまだイメージ的に熊本市にないんですよ。熊本市に足止めするための観光資源の仕組み、またよく言われるのですが、熊本に車で来たら道路が分かりづらい、市電が怖い、色々と聞きます。そういうものの整理も含めた上で、この財源がどういう形で使われていくのかということをおある程度明確にする必要があります。

そして、現場のフロントサイドでの徴収、こちらは預り金になりますので、そのような業務もかなり複雑になってくるかと思えます。全国旅行支援でホテルフロントは相当疲弊しまして、かなり人が取られたということがあります。そしてインボイス制度が始まりました。これに対して、フロント会計システムを変更するのに30万円かかるという業者さんもいらっしゃいました。やはり、制度導入にあたり裏でかかるコストと表に出てくるメリットを相互にしっかりと見ていかなければならないと感じております。

また、民泊についてですが、こちらは東京オリンピックに合わせて作られた制度で、営業日数が1年間で180日と制限されております。民泊の方も徴収するのにかなり厳しくなっていくのではないかなという風に思います。

それから、宿泊のエリア客室単価でございますが、熊本市内は今かなり上昇しております。私は、3年後5年後などを見据えたときに、TSMCとそれを取り巻く工事関係が終わった時が本当の勝負だと思えます。ですからその後を見据えて、観光立県として熊本が踏ん張っていくには、やはり政令指定都市である熊本市がしっかりと頑張っていかなければいけないと思えますので、是非ともその点も考慮しながらお話を進めていければと思います。

(委員)

ここにまとめてある資料の内容は、日々肌で感じている所で、本当にうなずきながら拝見しましたが、先程お話にもありましたが、スピードとタイミングという所で、こういう話し合いを熊本がしているように、全国どこの都市も「今、どうにか」と、同じような気持ちを持っている所にあると思うので、スピードとタイミングをもって、熊本市として、全国が頑張っている中で選ばれなければならないという大変な所かなと思いました。

あとは、熊本市という所で話をさせていただきますが、県にも属していますので、熊本県の中で熊本市の方向と県との折り合いといいますか、県の方も色々と思うので、そういった所も皆様と議論を深めさせていただきたいと思えます。

(委員)

先程お話しいただいたように、民泊はベッドメイキングが誰かいるとかそういうわけ

ではなく、現場が1人であったり家族の人に手伝ってもらったり、そういう方が多いので、中には管理会社にお問い合わせされる方もいらっしゃると思いますが、本当に現場がひっ迫するので、もし税金を導入するとしたら、どうにか簡単な方法で徴収できるようなやり方をしていたいただきたいなと思います。

あと、今台湾のお客様がTSMC関係で長期宿泊されています。その通訳の方が台湾で旅行のガイドツアーをされているのですが、熊本市はすごくPRが下手と言われたんです。台湾はどこに行っても観光客であふれているよと言われたときに、熊本はあまり観光地に人がいないとおっしゃっていた。せっかくこういう機会を頂いたので、これからもっともっと、どうすれば熊本の観光が栄えていくのかということを含めて皆様で話し合いができればいいなと思います。

(委員)

皆様がおっしゃるように、今熊本はどこよりもビッグチャンス、ビジネスチャンスを持っているのではないかと思います。そこにコロナも少し落ち着いたということで、経済的な動きが大きくなるかと思っています。そして、観光需要が高まっている中で、熊本を目的地として選ぶ理由づくりがすごく大切になってくると思います。これがあるから熊本市に来たい、熊本に来てこれがやりたい、そういった目的づくり、そのような体制を整える、受け入れ体制を整える、それにはやはり財源が必要という所で、どうやってそのような目的づくり、受入体制づくりができるのかといった所をあらゆる観点からお話していきたいと思いますし、やはり何年後って言っていると意外にすぐタイミングというものは来てしまって、いかにスピーディーに動いていくかという所が肝だと思っていますので、早めに種まきをして育てて、そして花が咲くようというように、そういった細かいタイムラインをちゃんと作った上で動いていくことが必要かなと思いますし、そういった点を含めて皆様と議論を深めていきたいなと考えております。

(委員)

本当に皆様がおっしゃっている通りだと思いますし、先程ご挨拶の時にも申し上げたように、宿泊税となると、宿泊業を営んでいる私共の施設にいらっしゃるお客様から頂いたお金を財源にという形になると思いますが、観光の素材が魅力あるものとなってそれが熊本に来る目的になり、滞在をする目的にもなるというような流れであれば、しっかりとした目的が定めてあれば、私共は宿泊税を取って行くことに関しては大いに賛成であり、逆に市の財源だけでは進めたくても進められなかった部分というものがかなり大きいと思うので、そういった所では財源確保のためにこれを設けるといのは大いに賛成できるという所なのですが、導入していく上で色々ある弊害をどう取り除いていくか、これがやはり一番大事になっていくのかなと。先程お話にもありましたが、先に進められている都市があって、そういった所で起きた事例は大いに活用して、同じ轍を踏

まないようにしっかりとした体制でやっていくことが大事なのかなと。後はその財源をもとにやっていく計画が、目先の短期的なものではなく、宿泊税を入れるとなったときに、ある程度できたからじゃあ辞めますというものではないと思うので、中長期的な計画が非常に大事になって来るのではないかなと。やっていく中で、必ず世界経済、日本経済の影響を大きく受けてくるような部分もあると思うので、中では途中で変更になってくると思いますけれども、ある一定の目指す目的というものがはっきりとしていない限りはこれを導入してやっていくということが難しくなってくるかと思います。やはり宿泊税によって観光の整備ができて、お客様が来た時に、皆様に納めていただいている税金がこんなに活かされているんですよと実感できれば、目的を持って来られているお客様にとっても納得のできる所かなと思うので、その辺りをしっかりと現場の意見を、私たちも小さい所まで気配り目配りしながら意見を出して行って、この宿泊税の導入に繋がればなという風には思っております。

(委員)

私も、委員の皆様と大体は同じ考えで、やはり観光資源の魅力を作り上げていくというのと同時に、インバウンドのお客様などが回復傾向でさらに今後は需要が増加していくという所では、誘致体制というような所もしっかりと強化していく必要があるのかなと思った所です。そういった意味で、今まで以上に積極的な観光施策を展開していくという所では、安定的な財源確保が大切になっていきますけれども、どうしても社会保障などと比べると優先順位というものが落ちてしまうという所では、やはり観光施策に使える財源というものを確保していくことが大事になってくるかなと思います。

(委員)

もうほとんど意見が出てしまいましたが、やはり人口減少を観光で補っていくというのは、国の方でも3月に観光立国推進基本計画というものが閣議決定されたんですね。これによると、2019年並みに観光商業を戻しましょうということで、3つあるんですよ、地域づくりの体制整備、インバウンドの回復、それから国内の交流拡大、ということで、こちらは当然皆様がおっしゃったことですので、今後進めていく必要があるかなという風に思います。

(会長)

ありがとうございました。観光振興の重要性と今の熊本に何が足りないのか、インフラもあつたと思いますし、魅力づくりがまだ足りないというご発言もありましたし、選ばれる熊本になるために何をすべきか、目的づくりというお話もありましたし、財源が入ることになったときに、今度はその財源をどう使ってるのかを明確にした方がいい、見える化した方がいいというご発言や、なるべくやり方を簡単にさせていただきたいとい

うようなご発言もありました。基本的に今の皆様のご意見では、課題としてまだまだ熊本の魅力発信は足りないぞと、そのためにはやっぱり財源が必要だよねという所まではなんとなく皆様の気持ちが行っていると思うのですが、では具体的にそれを進めるにあたって、財源の検討をどうするのかという所を次にお話しいただきたいと思います。

(2) 観光振興のための財源の検討について

(事務局)

「資料2 観光振興のための財源の検討について」説明

(委員)

受益者負担という考え方は大切かなと思ったのと、あとは財源規模も少額ならばあまり充実した施策展開ができないかなと思いますので、一定の規模を確保する必要はあるかなと思った所です。

(委員)

宿泊税は、多分少額にしたとしてもかなりの金額になりますよね。

(委員)

フラットにみると200円なんですよ。福岡は県と市で分かれていますよね。県が50円で市が150円で2万円を超えた場合は500円に上がりますね。これはとても分かりにくいですよ。

(委員)

だからその設定の仕方には、大分労力をかけてのぞまなければならないかと思いますね。

(委員)

今は基本的にエリアの宿泊代金が上がっているんで、この需要が減ってきた場合、今度はいきなり客室単価がどーんと落ちて来るんですよ。そのときにお客様はどうしてもお支払い総額を見られる、消費税だ、入湯税だ、そして宿泊税だということになると、かなりホテルサイドとして客単価が下がって来るのではないかと、という批判も私は一つあると思う。

(委員)

あとは連泊ですよ。長期連泊になってくると、一泊当たりで取るとやはり相当な金額になってしまうので、例えば200円でも2か月3か月長期で連泊される方がいると

んでもない金額を取らなければならなくなるので。

(委員)

簡易宿所や民泊にしても、かなり本来は安く設定してあるんじゃないかなと思うんですね。そのときに、一律に長崎や福岡と同様の200円と設定した場合は、やはり負担感というのはかなり大きくなるのではないかと。

(委員)

そういった連泊の方は、どちらかというとビジネスが多い。ビジネスで来て観光のために宿泊税200円を2か月3か月分多く払うとなるとやはり相当な負担が出てくる。そういった所を少し考えなければいけないのかなと。

(委員)

熊本市に泊まって良かったよね、と思ってもらえるような仕掛けを作らないと。

(会長)

全体的な宿泊の値段によって一般的に税が変わって来ますので、高い所にお泊まりになる方の100円150円の負担は大したことがないかもしれませんが、民泊などはいかがですか。

(委員)

そうですね、やはりお客様は、何百円単位とか、そういう上がり下がりで見られるか選ばれないかが決まってきたりするので、長期のお客様も入られていますけど、やはり大きく変わって来るとですね。

(委員)

営業日数の縛りもありますよね、民泊は。

(委員)

燃料高騰とかで原価が上がっているじゃないですか。単価を上げているのは、やはり原価が上がって利益が下がっている分を補うためなので、そこに税負担が重くなってくるお客様のことを考えて、今度は施設側がちょっと損をする、負担するというパターンが出てくると、言うてはいけないことなんですけど、ごまかそうとしたりとか、税の目的から外れた行為が出てくる可能性があるんですよ。だからそういうことをなくすためにも、やはりそういう所を明確にして決めて行かないと導入が非常に厳しくなってくるのかなというのは思っていますね。

(会長)

先程、事例の研究をしっかりと二度と同じ轍を踏まないというようなお話ありましたが、既に導入されている九州の他の地域などで、導入時に検討されてた課題ですか、それをどう克服されたとか、それによってちょっと良くないなと思って辞めてしまったとか、そのような具体的な事例などは材料としてお持ちですか？

(事務局)

この第1回が終わって第2回までの間少し期間がありますが、その間に、先行自治体に宿泊税を入れて良かったメリット、デメリットや課題などについて調査をして、第2回の検討委員会でご報告させていただきたいと思います。

(会長)

はい、ありがとうございます。その時に税の値段の設定をどのようにされたのかとか、宿泊に対していくらという決め方をされたときの値ごろ感をどのように決めたのかとか、例えば先程お話にもありましたが、観光を目的にしない方の宿泊税をどのように取り扱っているのか、例えば期間に応じて一週間以上になったらもう取らないようにしているとか、その辺りの具体例が少しあると次回話しやすいかなと思うので、是非その辺りの材料があるといいかと思います。

(委員)

ロングステイのお話がありましたが、デイスティなどがどうなるのかとか、個別に見ていくと、色々これはどうなっているのかという点が出てきますね。なので先行地のデメリットの部分の是非教えてもらいたいと思います。実際に導入して、長崎が4月1日に導入されたということですが、例えば宿泊税徴収の最前線の所でトラブルやクレームがなかったのか、そういった所もやはり調べていただきたいと思います。

もう1つは、九州各県、観光に力を入れているという所で、今導入しているのは福岡と長崎ですね、沖縄も検討中ということで聞いております。そして観光都市である大分や宮崎、そういった所が今宿泊税を検討しているのか、という内情を聞きたいと思います。それは先程私が言った観光地の都市間競争という所で、場合によっては熊本が先行することで、大分や宮崎がまだやらないという場合に、何らかの影響を受ける部分がないか、そういった所を聞いてみたいと思います。是非よろしくお願いします。

(委員)

福岡は、確か入湯税が安くなりますよね。宿泊税を取ることによって、入湯税を逆に下げている。なので植木温泉などは特にそうなると思います、入湯税を今実際頂いている

のに宿泊税を乗せてくるとさらに上がるので。なので宿泊税を取ることによって入湯税は確か福岡は50円とか、相当下げているので。

(会長)

なのでそういうバランスをとった施策にしないと。

(委員)

街中のホテルさんと違うのが、私たちは市の端の方にあるので郊外との競合もあります。県の動き、市だけに宿泊税があつて県との開きが出てくると、お客様が選ぶ時に大きなマイナスになる。

(委員)

そうですね、逆に入れたことによって減ったら意味ないですね。

(委員)

なので県の方のご意向や動きが気になる所です。

(委員)

菊池温泉とかですね、菊池市になりますけど。県としてどうしていかれるのかお考えがあるかと。

(会長)

その辺りも、もし次の会議の時に、県の方針というか今後のスタンスのようなものも分かれれば。

(委員)

例えば、修学旅行生からは宿泊税を取らないという所がありましたが、私たちは日赤や大学が近くて、受験生や実習生の方々も多いんですね。なので、そういう方々も、学生さん向けでも取られるのかなと。

(会長)

観光目的以外で宿泊される方の税をどうするかという所など、やはり事例から少しご紹介いただけたらと思うので、是非次回までに何か資料を揃えていただきたいと思います。

今、財源が必要だというお話は大体皆様共有されていると思うのですが、では宿泊税でないといけないのか、という問題も多分あると思うんですね、それと宿泊税ならどうい

風にしたらいいのか、取る範囲とか取る金額だとか取るタイミングだとか色々懸念事項があると思うんですけど、事務局から説明があったように、フラットな立場で、これからの観光振興においてお金は必要だと、でもどこからそれを調達するのかといったときに宿泊税はその案の一部かもしれないけれどもこれありきではないとお話があったので、それを含めて財源の確保に関してどのようなご意見をお持ちなのか。今のままではちょっとやっていけないという事情は多分ありますよね。お金はない、じゃあどうしましょうかという。お金があったらもう少しやっていることも増えていると思うんですけどね。お金の限界の中で市も頑張っただけでやっていらっしゃると思うので、今の段階で足りない所の部分もこれからつめていくと。先日ツーリストエキスポというフェアに出たのですが、特にコロナ後ということで、例年に比べてとてもセラーの数が増えていまして、先程お話にもありましたが、都市間の競争がすごいんですね。例えば大分でしたら、セラーのパワーにおされる位すごい勢いで売っておられますし、なので、持っているものが素晴らしいのかどうかの判断も必要なんですけども、それをちゃんと発信できるかできないかが、これから選ばれるか選ばれないかの大きな差になるなと改めて感じまして、熊本もそれだけのパワーを発信していかないと選ばれないんだろうなと。帰ってきてさっさと仕事をしないといけないなと私も思ったくらいで。そのためにも何かの形で熊本が結束して新たに何かをするということが新しいパワーに繋がるかな、そのための財源の確保がすごく重要だなと思うんですけど。一方で皆様ご存知のように、宿泊税は宿泊されないとお金を取れない仕組みなので、今の状況で、じゃあ皆様本当に宿泊してくれているのかと。T S M Cがらみで仕事で来ている人ばかりで観光で来ている人たちは本当にここにいるのだろうかという不安もあるなと。実際に観光客にとってここは泊まるのにいい場所なのだろうか、あるいは泊まって楽しんでもらっているのだろうか、という不安もあるんですけども、その辺りで皆様何かありますか。こういうことにお金をちゃんともっと使って、例えば本当に魅力的な場所で泊まらなければ楽しめない、などのプログラムが多くあれば否が応でも宿泊するように持って行けるのではないかと思うんですけどね。なので、そのために早朝のプログラムをどうするかとか、ナイトタイムエコノミーをどうするかとか今までも色んな意見を出されていると思いますけれども、魅力を発信して泊まっていたくために、今熊本が最もお金を投下してやるべきことは何なのかということ、一言ずつもしありましたら。

(委員)

市内であればインフラ整備だと思います。今空港に関してはJRを通そうという計画があると思いますが、熊本市内の主要道路は今までずっと拡張されることがなく、熊本城ホールができた時も、周りの道路を広げて流れを良くするようなことは全然できてなくて、バスはセンターを移動したものの、渋滞が全く緩和されずに、出発して最初の停留所に行くまでにもう時間がずれているような状況だと思うんですけどね。さらに地元の人

間でさえ、バスがどの方面に行くのか、どのバスに乗ればいいのか分からないような状況になっているというのは、一か所に集中している割には道路整備ができていないという部分が一番あると思いますし、ビジネスに関しても、出退勤するのにも渋滞で定刻に出勤できないような方もいらっしゃる。さらにTSMCが開発されてその輪がさらに外に広がって、水前寺から向こうに行くときに全く車が動かないような状況になってしまっているというのが事実だと思うので、やはり、電車も含めてでしょうけれども、もう少し公共交通機関が動けるようなインフラ整備が大事なのかなと。JR熊本駅も新しくなりましたが、そこまでの道は整備されていないので、結果的に渋滞が増えていますし。路面電車も、多くの都市にあるわけではないので、すごく観光の目玉にもなるはずですが、逆に言うと邪魔になって事故のもとになってしまっている状況で、これもやはり道路の拡張整備ができていないあたりではないかと思いますので。メインとなる熊本城ホールは中心部にできましたが、グランメッセなり空港なり、インターも遠い所にありますし、そこから中心部に入って来ると一切身動きがとれないような状況かと思しますので、その辺りが解消されないと来ようにも来れないし、観光資源も熊本城以外にもあるはずですが、そこまでの導線がないというか、行けない。一度、ある所で着地型プランの企画を一生懸命やりましたが、その時も結果的に問題になるのが交通の便なんですよ。なので素材をつなげることができずに着地型のプランとして思うように作れなかったというのがあるので、何をしてもインフラ整備が一番かなと思っています。

(会長)

一度来たお客様が交通渋滞で嫌な思いをすると、イメージも悪くなりますよね。観光のみならずビジネスにおいても大きな課題ですよ。

(委員)

参考資料で頂いている、宿泊税導入自治体の財源規模を見た場合に、やはり数億円という所になってくると思うんです。宿泊観光目的という所で使える予算が数億円となった場合は用途を相当絞らざるを得ないと思います。そうすると、やはり最終的に宿泊税を取る目的というものはっきりと明記する必要がある、そして、その目的の中でも優先順位をつける必要がある。そうしないとその数億円という予算はあっという間になくなりますので、いかにそれを使うことで熊本市の観光に利益になるのかという所を考えて行かないといけない。例えば先程プロモーションというお話がありました。全国あるいは海外に対するプロモーション、台湾に対するプロモーション、そういったことも非常に大事になってくるんですね。熊本はPRが下手という話が出ましたが、そこはやはり優先順位が高いのではないかと、外にどうやって打ち出していかに有効に財源を使っていくことが必要になってくると思います。また、熊本市内の観光施設ではやはり熊本城がメインになっていて、それ以外の観光地、観光施設の力の入れ具合が少し弱いのではないかな

と思います。そういった意味ではそちらの整備に予算をかけることも必要ですし、その観光地をつなぐ回遊性をどうしていくのかも必要になってくると思います。インバウンド、外国の人たちがちゃんと目的地に行ける誘導表示といったものも必要だと思います。そういったものを集めていくとあっという間に数億円いってしまうという風に思います。結論としましては、最初に言いました通り、やはり目的をはっきり明示することと、具体的なものをそこに入れる、そして優先順位をつける、これが必要じゃないかと思います。

(会長)

ありがとうございます。まさしく私たちがこれからやらなくてはいけないことの一番重要なことであると思いますけれども、財源が確保できたとしてもその財源にも限界がありますから、その目的をしっかりと定めて優先順位をつけるためにも、どのようなことに予算を使っていけばいいのかを含めて検討しなければいけない所です。

また、事業者様や来訪者の皆様方が宿泊税に対してどのようなイメージを持っていらっしゃるって、今後それに対してご協力体制があるかないかなど、事務局の方でも今後アンケートを取る予定があるようなので、その辺りについて事務局からご説明いただけますでしょうか。

(3) アンケート調査について

(事務局)

「資料3 アンケート調査について」説明

(会長)

ご説明ありがとうございます。資料に書かれている項目以外に、もっとこのようなことを聞いた方がいいのではないかとか、聞き方の問題だとか、あるいは宿泊事業者にこうしたもの以外に取る必要があるとお考えのものがあればそれも含めて、何かご意見があればお願いいたします

(委員)

旅行者向けのアンケートは結構難しいのではないかと思いますよね。セグメントなどもあるじゃないですか。その辺りはどのようなイメージをされていますか？

(事務局)

イメージとしては、例えば宿泊者の方にホテルなどでアンケートフォームのURLをQRコードで読み込んでいただいて中身を回答していただくと。その中で年代なども回答していただこうと考えております。

(委員)

外国人も含めるとなると多言語になりますよね。

(事務局)

そうですね、その点については検討する必要がありますね。

(会長)

今日ご参加の皆様方にご協力をお願いするような形になりますよね。現場の方で実際に聞いてみたいような設問の中身などがもしあれば。いかがですか？

(委員)

中々自分たちの施設のアンケートも答えてもらえない中で、回答率が20%あれば良い方かなという位なので、特に税についてとなると難しく答えてくれないのでは…。年代・居住地・来訪目的などは普通に答えられる部分になると思いますが、それ以外のことを聞きたいときにどういう風にした方がいいかというのは、難しい部分ですね。

(会長)

値ごろ感など聞けないでしょうか？例えばこの位の料金であれば払ってもいいとか、あなたが今回宿泊された分に対して、例えばプラス50円払うなら良い、100円は普通、200円は嫌だ、など。

(委員)

会長がおっしゃるように、選択式にした方が答えてもらえますね。記述式では絶対答えてくれない。200円以内であれば良いなどにチェックするとか。

(会長)

お客様が実際に泊まれた場所によって、大体の料金体系が分かりますよね。そこに泊まったお客様が果たして何円位であれば良いと思っているか、という点は少し聞いてみたいと思いますよね。

(委員)

WEBになってくると、ご高齢のお客様には中々ご回答いただけないと思います。そこが難しい所ですね。

(事務局)

今お話しいただきましたように、より答えやすい形で設問を設定したいと思います。同

時に、よりお答えいただくためにはインセンティブを付ける必要があるかと考えておりますので、その点について今検討している所でございます。また、窓口についても、ホテルだけではなく、サクラマチのバスターミナルや空港、駅もございます。あるいは観光案内所もございますので、そういった所も含めまして広く取って行きたいと考えております。

(会長)

先進事例などで、既にこういう試みをやっているかどうかを調べられていますか？例えば長崎が導入するときこんなアンケートを取っていたとか、その中身や結果などの参考資料があれば。

(事務局)

福岡市はこの資料にあるような項目でアンケートを取られています。

(会長)

他の所がどのような状況かは、参考として別途資料があるといいなと思います。

(委員)

回収率、出した人に対してどれくらい戻ってきたのかとかですね。

(会長)

また、先程お話にもありました、色々な目的に使いたくても予算の上限があるという状況の中で、具体的な項目としてどういうものに宿泊税が使われているかも知れたらいいかなと思うんですね。簡単な所ですと、例えばサインボードを新しくするとか、案内所を整備するとか、オンラインでの情報を充実させるとか、色々あると思いますが。今日コンベンション協会の皆様方もいらっしゃっていますが、例えばMICE誘致のために宿泊税を活用している所もあるんですね、外国などで多いんですけども。要するに誘致をしてそこに宿泊してもらえるとリターンが大きいですし、しかもMICEで誘致すると1年どころか2年3年先の宿泊客も確保できると。そのための世界へ向けたプロモーションにお金を使う、という使い方もあるので。そのような、選ばれるMICEデスティネーションとなってお金を稼ぐ、というのも一つの方法かなと思って、その辺り含めどのような使い方が熊本にお金を落とし、魅力を発信でき選ばれる観光地になるかという一番良い方法を皆様で考えられたらいいかなという風に思っております。

(委員)

せっかくアンケートを取るのであれば、来訪目的というよりは、素直に熊本を選んだ理

由、熊本に来られた理由は何ですか、ということが知りたいかなと思って。来訪目的だけでは観光や仕事などの回答しかもらえないので。観光はどこでもするので、その中でなぜ熊本を選んだかという所が聞けたら嬉しいです。

(事務局)

先程お話にありました福岡市のアンケートの回収率についてですが、ホテル旅館協会や旅館組合などに入っている116件に調査されて44件回収したということで、約4割弱となっています。

(会長)

はい、ありがとうございました。お時間の方も残り少なくなってきておまして、今日はまだ状況を把握するという段階なので、その中で行政にもう少しこのようなことをやってもらいたいとか、次回までに共有してほしいことなど、その辺りのことがあればお伺いしますがいかがでしょうか。

(委員)

今後の熊本に関するPRの参考とするべく、どういう媒体を使って予約されたのか、今後どういったセグメントにどういった宣伝媒体を使った方が効果的になるのかの参考になると思いますので、アンケートに載せていただくといいかなと思います。

(委員)

宿泊事業者向けのアンケートの中で、宿泊税を導入する場合にはシステムの改修という課題が出てきますが、システムを改修しないといけないかどうか、また改修するに当たって費用がどの位かかるのか。やはり宿泊事業者のそういった改修にあたって何らかの補助があるのか、そういう心配もしています。ですからそういった設問も作っていただければと思います。

(委員)

アンケートとは別件ですが、今回集まっているのは民泊事業者、それから各組合の組合員さんだと思うんですが、旅館業許可を取っている所はラブホテルもあるんです。他の県はラブホテルから宿泊税を取っているのかというのもお伺いしたい。デユースの話も出たのですが、ラブホテルは本当にデユースの形ですから。

(委員)

6時間以上の滞在でなければ宿泊とみなさないと載っていますね。なのでそういう所も決めなければならないだろうなど。本当に、導入するにあたっては徴収方法がまず問題

になるし、システムは企業によって全然違うんですよね。なのでそれをインボイスの時に改修したとか、30万も50万もかけた所もあれば、5、6万月々払えば変えられるという所もあるというような。導入するにあたって、今度はそれをシステムに入れるのか入れないのか。では全部の施設が同じようにするのであれば、簡単な話、入浴券を買うように、もう同じ機械を各施設にお金を使って入れてもらって、それでその券をフロントに持って行けば泊まる人数などもごまかしがきかないですし、添付すれば済むだけの話なので、それでも提出すればもう市も管理しやすいでしょう、宿泊人数イコール宿泊税になるので。そういった形にしてもらった方が楽というのは楽ですよ。

(委員)

旅行会社経由で宿泊の申し込みをした場合、基本クーポンを発券してお客様は旅行会社へ入金するじゃないですか。なので基本的にはホテルに行けば何も支払うものはありません。ただ宿泊税は別なんです。現地で払わなければならないので、そこはお客様もなぜまた払わないといけないのかとか、ホテルの人がそこでまた徴収すると。

(委員)

払いたくないという人もいますよね。事前決済しているじゃないか、なぜ宿泊税をまた払わなくてはいけないのかと。

(委員)

民泊は、鍵の受け渡しはするけれどもその後は無人という所もあるんですよね。なので、徴収する時に現金などですと、なくなってしまうなどの問題がでます。オーナーが直接やり取りをするわけではないし、クリーナーさんだったり、そこに携わる人が多分徴収することにはなっていくと思いますけれども、うちは住宅宿泊事業者なので私が集めることになるのかもしれないのですが、例えばQRコード決済ですぐそのまま税金として市に入りますよとか、お年寄りの方であれば先程お話にもありました券売機であったりとか、とにかく本当に簡単にしてほしいです。QRコードだったら料金の何%か手数料がかかるかもしれませんが、本当にお願ひします。切実な願ひです。

(会長)

やはり宿泊のスタイルによっても全然違うし、価格帯によってもその負担に関する感覚も違うし、ケースバイケースで色々なことが出てくるという所があって、逆にそれらを掘り出す時間が少し必要なので、皆様方にも次回までにまた色々思い出したことを整理してきていただいて、またこの場でディスカッションできればと思いますし、事務局の皆様方にも次回までにご用意いただく資料なども願ひできればと思います。

本日はお時間にも限りがありますので、何か議論を深めるというよりは、現状把握とし

て色々なお立場の違いがある皆様方からご意見頂いて、共通して皆様方がおっしゃって
いたことは、今がチャンス、とにかく今ということで、スピーディーに何かを起こすため
に、選ばれる熊本になるために、じゃあ何をやらなければいけないのかといったときに、
今ある課題を解決するために、財政的な何らかのサポートが必要だと、そのためにこの宿
泊税がどうなのかという議論を含めて、色々と課題はあるものの、どこかでお金を調達し
ないと無い袖は振れないし、より良い熊本を全世界に向けて発信していくための第一歩
として検討していくということで、次回以降も議論を深めていけたらいいなという風に
思っております。ご協力いただきありがとうございました。事務局にお戻しいたします。

4 閉会

(事務局)

ありがとうございました。

委員の皆様におかれましても、貴重なご意見を頂き誠にありがとうございました。本日
ご審議いただきました内容を基に、今後の検討を行ってまいりたいと思っております。

次回の委員会は12月～1月頃の開催を予定しております。今回ご審議いただきまし
た内容を踏まえたアンケート調査の結果なども踏まえ、引き続きご審議いただく予定で
す。

これをもちまして、第1回熊本市宿泊税検討委員会を閉会いたします。

皆様、本日はどうもありがとうございました。